

令和7年12月17日

記録：井上 里美

令和7年度第1回 教育課程編成委員会 報告書

令和7年12月17日に、教育課程編成委員会を本校理事長室で実施しました。
その結果を下記のとおりご報告いたします。

1. 会議概要

- ・開催日時：令和7年12月17日（水）16：10～17：20
- ・開催場所：日本総合ビジネス専門学校 理事長室
- ・委員
出席者：西山博幸（株式会社ソフィア総合研究所 専務取締役）
吉田茂樹（情報科学芸術大学院大学 教授）
服部直子（大垣市医師会看護専門学校 専任教員）
氏原栄子（医療法人守田クリニック 事務長補佐）
高橋綾乃（株式会社偕拓堂ギャラリー「美術の森」イラスト教室講師）
校長 小川義隆（委員長）
講師 北村伸司、山口祐生、山北麗子
欠席者：なし
- ・オブザーバー
理事長 白井功、理事 高橋伊三男
- ・書記
事務主任 井上里美

2. 議題

- ①開会挨拶・趣旨説明
- ②認定要件の確認
 - ・職業実践専門課程の確認
 - ・カリキュラムポリシーの確認
 - ・本校の教育方針の確認
 - ・各分野の教育方針の確認
- ③学校教員の意見を含めた審議
- ④各産業界委員からの意見聴取
- ⑤今後の課題と対応方針
- ⑥閉会

3. 審議内容

議題①開会挨拶・趣旨説明

- ・自己紹介
- ・開会挨拶・趣旨説明

委員長より、職業実践専門課程認定をめざす取り組みの重要性について説明があった。

議題②認定要件の確認

委員長より、認定基準の概要について説明があり、産業界との連携、教育課程の実践性、質保証体制、情報公開が必須であるとの説明があった。

- ・職業実践専門課程の確認

専門学校のうち、企業等と密接に連携して、最新の実務の知識、技術、技能を身に付けられる実践的な職業教育に取り組む学科を文部科学大臣が「職業実践専門課程」として認定する。

※全国では4割以上の学校が認定をうけている。

【認定要件】

1. 修業年限が2年以上である。
2. 専攻分野に関する企業、団体等と連携して、**教育課程編成委員会**を設置してカリキュラムの編成を行っている。
3. 企業等と連携して、実習、実技、実験または演習の授業を行っている。
4. 総単位数が62単位以上である。
5. 企業等と連携して、専攻分野の実務に関する研修を行っている。
6. 学校評価を行い、その結果を公表している。
7. **学校関係者評価**を行うにあたり、当該専修学校の関係者として企業等の役員または職員を参画させている。
8. 企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動、その他の学校運営の状況に関する情報を提供している。

〈認定後、ホームページで情報公開する内容〉

学校概要、自己評価表、学校関係者評価報告書、および職業実践専門課程の基本情報、授業計画表（シラバス）および「実務経験のある教員による授業科目」他を公開する。

委員長より、教育課程編成委員会は、職業実践専門課程認定校として認定される必須条件として、本校の実践的な職業教育・専門教育の質的向上を図ることを目的とし、委員の皆様からのご意見を賜り教育課程を編成するものと位置づけるとの説明があった。

- ・カリキュラムポリシーの確認

- 教育課程編成・実施方針

- 日本総合ビジネス専門学校は、「建学の精神」を鑑み、キャリア教育と職業教育により、IT・一般ビジネス・デザイン・医療分野の専門的な知識と技術を身に付けるカリキュラムを実践します。

- ・キャリア形成・設計・開発できる力を身につけるためにキャリア教育を行う。
 - ・実践力を身につけるために「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」を体系的、段階的に教育課程を編成し提供する。
 - ・IT・一般ビジネス・デザイン・医療業界で求められる知識・技術を身につけるため、専門性のある授業や業界と連携した学外実習を実施する。
 - ・課題発見能力、問題解決能力を身につけるために、学んだ知識と技術を基に、自らテーマを設定して研究を行う。また研究成果として卒業制作等にまとめて成果を発表する場を提供する。

- ・本年度の教育方針の確認

- (1) 国家試験や各種資格取得により、社会人に有用なスキルの醸成
 - (2) AI時代に必要とされる人材養成
 - (3) 主体性のある即戦力としての人材教育

- ・各分野の教育方針の確認

- 委員長より、各分野の教育方針について詳細に説明があった。

議題③学校教員の意見を含めた審議

現状の様子

- ・IT、ビジネス、デザイン分野

- プログラミングを全く行ったことがない学生が多い。

- 言語が違ってでもできるようになると良い。

- 学生は大人しい子が多い、壁にぶつかったら諦めてしまう子が増えてきている。思っていることを言葉にできない学生もいる。

- 大人しいが真面目な学生が多いので、ゲーム作成や資格試験の勉強を放課後残って取り組む学生もいる。

- ・医療分野

- 医療事務は座学が多い分野になるので、就職に必要な資格を取って欲しい。

- 事務的な資格を取り、コミュニケーション能力を育てたい。

- 患者さんに寄り添えるスキルを身に付けて欲しい。

- 以前は病院実習を行っていたが、今は個人情報保護の関係で難しくなっている。実習を組み込めたら更に良いのではないか。

議題④各産業界委員からの意見聴取

西山委員：年間を通して、1日または5日のインターンシップがあり、IT企業は何をやっているのか、システム開発はどのようなプロセスを経ているのか、用語や他の人の意見を聞きながら、成功体験を経験していただく機会がある。自分たちのグループ以外の意見も聞けるのでどんどん参加して欲しい。実際にプログラムを作成したときの感動、人のものを見て評価し、ものの質を高めていくスキルが必要である。

学校での講座は例えば、岐阜県情報産業協会で出前講座を実施しているので利用すると良い。

氏原委員：クリニックでのインターンシップは受け入れができる。就職後に現実とのギャップで悩むことが多いので外部の実習は必要。

自分の気持ちをうまく伝えられないことで悩んでいるのではないか。

服部委員：学生気質でコミュニケーションが苦手な学生が増えてきている。

コロナを挟んで一気に対話でのやりとりが減って、若者世代は対面でのコミュニケーションが苦手と感じる。スマホやタブレットでの会話をすることが増えて、親子間でもコミュニケーションが取れていなく、異世代の方のやりとりが難しいと感じる。

コミュニケーションとは、具体的には、丁寧な言葉遣い、相手を否定しない、認知症の患者さんにも寄り添えるような受け答え。

高橋委員：イラスト教室は開催しているが、インターンシップを受け入れることは難しい。中学校で出張講座をしているが、イラストレーターは外部の方と接しなくても良いと思っているふしがある。ユーチューバーやツイーターへの憧れが強い。イラストレーターもクライアントからの話を聞いて要望をまとめることが多いのでコミュニケーション能力が必要である。私自身も最初からイラストレーターの道を目指したわけではなく、色々な繋がりがあり、今になる。自分の道を自分で切り開けるように。

吉田委員：デザイン系の学生は自分を出したいが、システム系の学生は大人しいように感じる。何を作りたいのか（ゲームやWEBサイト、映像編集など）やりたいことを思い浮かべて何が必要かを考えられるようにしていくと良い。今のカリキュラムはかなり幅広い。ひとつひとつの掘り下げも重要。プログラミングができるだけではダメなので、自分がどうなりたいたいのかの道筋を明確にする必要がある。

委員長：本校でたくさんの資格を取ってもらいたい。現場の人の話を聞かせたい。
学生に授業の中で卒業生が語る機会があると良い。学生に生の声をいただ
けると、少しの時間でも学生には財産になる。

議題⑤今後の課題と対応方針

- ・産業界委員の意見を反映したシラバス作成を進める。
- ・企業との情報交換のやり方。
- ・インターンシップについて、どのように参加させるのかなど。

議題⑥閉会

委員長より、産業界との連携をさらに強化し、認定取得に向けて全学で取り組んでい
きたいとまとめがあった。

4. 今後の予定

委員長より、次回は2026年6月頃に開催したいとの依頼があった。

5. 備考